疾患名：創傷
主訴：切り傷、擦り傷
疾患説明（一般）
・「創」は、皮膚が傷つき、破綻している状態です。
・「傷」は、皮膚が破綻していない損傷です。
・「擦過傷」（さっかしょう）は、いわゆる擦り傷で体表面の浅い創です。創面を清浄化し、創保護により皮膚の再生を待ちます。創傷被覆材による閉鎖療法の適応となります。
・スーッと刃物で切った傷は、「切創」と呼ばれ、創面は滑らかで汚染していなければ一期癒合が期待できます。深さにより縫合処置をします。
・創面が“ぐしゃぐしゃ”になっている場合、「裂創」になり、もっと程度がひどいと「挫創」、「挫滅創」になります。創面を清浄化し、またデブリードマンと呼ばれる汚い組織を除去し縫合処置をします。
・「挫傷」（ざしょう）は、打撃などの外力により内部の軟部組織が損傷したもので、体表に傷がないものです。一般に保存的に治療が行われます。「肉ばなれ」＝筋挫傷の他、脳挫傷、肺挫傷など体内部の臓器の損傷もあります。
・「刺創」（しそう）は、さしきずで、細長い鋭器で突き刺した創で、創口に比して創が深いです。外見から内部の損傷程度が推測できません。よくある例が、「ハリ」を踏んだ、「ウニ」のトゲが刺さった、「ナス」のトゲが刺さったなど、２～３週間ジクジク腫れと痛みを伴う場合が多いです。
・「咬創」（こうそう）は、動物にかまれた損傷です。創面が汚く、また化膿しやすく一般的に非常に治癒しにくいです。犬、猫によるものが多いが、人が殴った時に相手の歯が当たり、手背に損傷を負ってくる時があります。人間も含め、動物の口腔内には雑菌が多く化膿しやすく、基本的に受傷時に大量の菌が創の深部まで入っているため、一次的に創を閉鎖すると「細菌が存在する閉鎖腔」が作られて感染が広がります。排膿がなくなるまで開放しておきます。

・最近の創傷に対する治療の原則は、消毒を無理に行わず、水道水の洗浄と創面を乾かさず湿潤状態に保つことといわれています。しかし、個々の症例により処置は異なります。

① 軽傷
・傷の深さ、皮膚の切れ方、体の場所にもよりますが化膿を防ぐには、木片、植物片、動物の組織片など有機物を取り除くため「水道の流水」で洗浄します。現在、消毒薬には「組織傷害性」があり、使用を控えます。ガーゼも使いません。ガーゼは創面を乾かしてしまい、治療を遅らせます。現在市販されているフィルム状の創傷被覆材で覆います。
現在「ラップ療法」が巷間よく使用されているが、十分原理を理解せず実施すると逆に細菌が増殖します。壊死組織の多い創や、糖尿病、末梢動脈疾患を持つ人の創、原因不明の傷に対しては「ラップ療法」は行わない方が良いでしょう。

② 中等症

・顔の傷、子供の傷、血が止まらない傷、深い傷、挫滅がひどい傷、異物が入っている傷等の場合、医療機関を受診してください。

③ 重症

・血管から拍動性に血液が出ている場合、傷口を圧迫してください。決して心臓に近い部位をヒモやタオルできつく縛らないでください。縛ることによりかえってその部位の組織が壊死する場合があります。

落ち着いて圧迫すればかなりの確率で出血は抑えられます。場合によっては救急車を呼びましょう。

④ 緊急

・上記の圧迫を行っても出血が弱まらない場合、すぐに医療機関を受診するか、もしくは救急車を呼びましょう。